



留学生アンケートから明らかになった草の根的な国際交流の必要性

普連土学園高校3年 加藤 珠葉(かとう たまは)



01 はじめに

私は幼い頃から、日本に留学している大学生や大学院生との交流を積極的に行い、日本とは違う海外の価値観をたくさん知ることができた。その経験から、日本の少子化対策として、留学生を日本の家庭に受け入れることを提案する。

子ども家庭庁によると、現在の日本は、「仕事と子育ての両立の難しさ、家事・育児の負担が依然として女性に偏っている状況、子育ての孤立感や負担感」があると述べられている。

そこで、私は、留学生と触れ合うことで日本の家庭の家事・育児に対する価値観を変容させることができるのではないかと考えた。

また、文部科学省によると、留学生のうちに日本での就職を希望する割合は約6割となっている。留学生にとっても日本の家庭に訪問することで、社会で働くイメージを掴むきっかけになるのではないかと考えた。

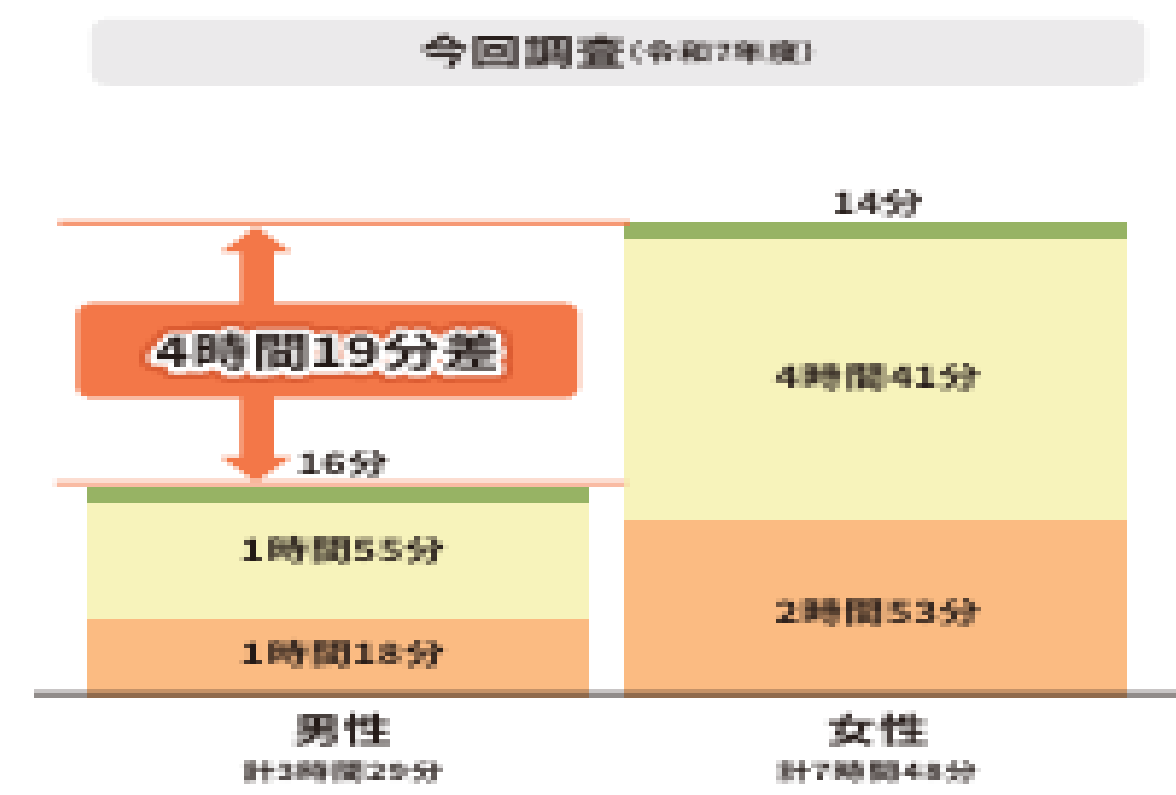
02 核家族の孤立、留学生の孤立

★日本の少子化の要因の一つ

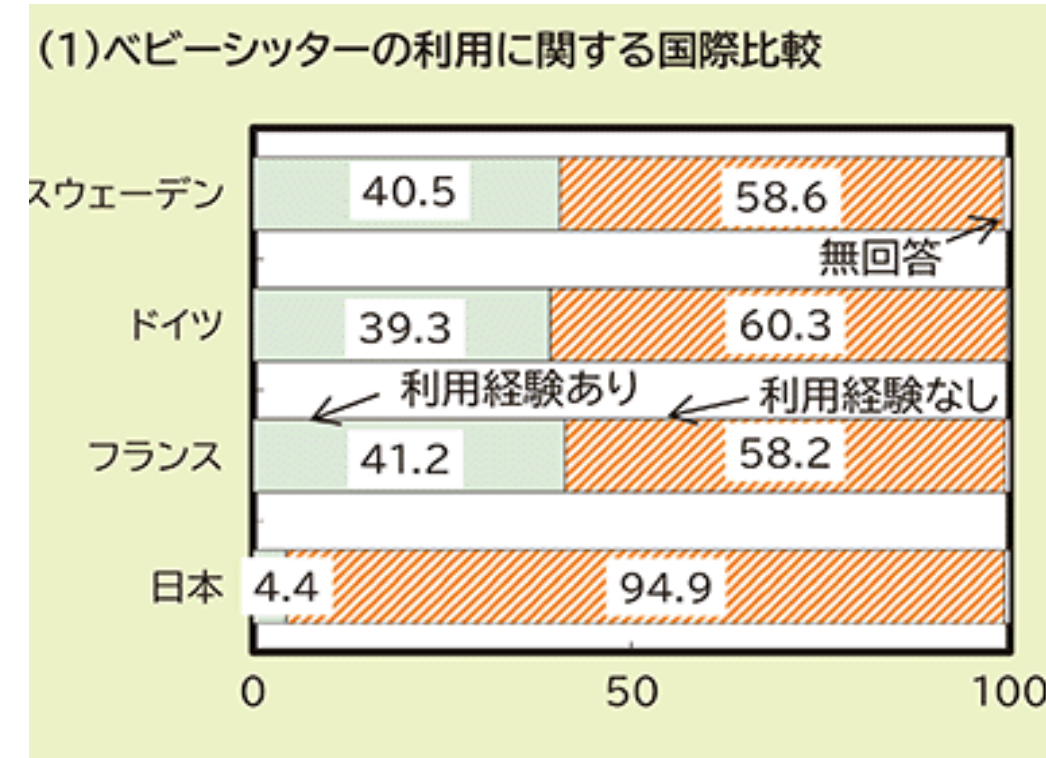
家庭内で家事育児負担が女性に偏っている(図1)

- 内閣府令和五年度年次経済報告では「我が国では核家族化が進み祖父母の育児への協力が得にくくなる一方で、居宅訪問型の保育事業者であるベビーシッター利用への抵抗感が根強いという指摘も聞かれる。」と述べられている。

☞核家族の孤立



(図1) 都庁による男性の家事・育児実態調査(2025)



(図2) 内閣府によるベビーシッターの現状(2023)

★留学生の就職問題

留学生支援ネットワークによると、留学生は日本人に比べ家族や兄弟から入ってくる就職について情報が少なく、十分な準備ができず、就職を諦め帰国するケースがある。

☞留学生の孤立

2つの孤立をどうしたら解消できるか

☞日本の家庭と留学生が交流できるシステムが必要ではないか

アメリカ出身の留学生が、「アメリカにはオペアプログラムがあり、海外から来た留学生が家庭で育児サポートを行い、お金を貰いながら、ホームステイするプログラムがあるよ」と教えてくれた。

☞日本国内でオペアプログラムのようなシステムのニーズはあるのか興味を持った。

☞現在日本には、大学生が地域や家庭と交流するプログラムがどのように展開されているのか興味を持った。

03 研究方法

①文献調査

②アンケート調査

調査協力者：日本に留学中の大学生10名

アンケートはGoogleホームにより作成

04 調査結果① 文献調査

①オペア(au pair)

米国の国務省が指定する交換訪問者プログラム。外国人がアメリカ人のホストファミリーと生活し、育児サービスを提供しながら、有償でホストファミリーの家庭生活に直接参加する機会が与えられる。

アメリカ連邦規則集で定められている厳しい審査(犯罪歴 調査、身元調査、身体検査、面接など)がある。

<現在日本で行われているプログラム>

②「留学生」むさしのファミリープログラム

武蔵野市周辺に暮らしている留学生が地域家族と交流することができる一年間の交流プログラム。ホームステイではなくホームビジットや電話などを中心としている。近隣大学との連携も行っている。

③留学生就職促進教育プログラム認定制度

外国人留学生に対する「日本語教育」、「キャリア教育(日本企業論等)」、「インターンシップ」を一体として提供する質の高い教育プログラム。

④大学生ベビーシッター(昭和女子大学)

大学生向けに共働き家庭の子育てと仕事の両立について学ぶ機会を提供する。小学生の送迎、宿題サポート、英語指導などを行う。

文部科学省「留学生就職促進教育プログラム認定制度」https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1386454_00030.htm (2026年5月3日 閲覧)

東京都「男性の家事・育児実態調査2025」<https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seikatubunka/~2025-1> (2026年5月3日 閲覧)

内閣府「令和五年度 年次経済財政報告(2023)」<https://www5.cao.go.jp/j-1/wp/wp-je23/23.html> (2026年5月3日 閲覧)

公益財団法人武蔵野市国際交流協会「『留学生』むさしのファミリープログラム」<https://mia.gr.jp/internationalstudent/> (2026年5月3日 閲覧)

アメリカ連邦規則集 <https://www.ecfr.gov/current/title-22/chapter-1/subchapter-G/part-62/subpart-B/section-62.31> (2026年5月3日 閲覧)

ポピンズシッター「昭和女子大学『大学生ベビーシッター』インターンシップ制度講習会を開催しました」<https://smartsitter.jp/column/post-5095/> (2026年5月3日 閲覧)

留学生就職支援ネットワーク「留学生就職支援の現状」https://ajinzai-sc.jp/u_situation_issue.html (2026年5月3日 閲覧)

子ども家庭庁「子ども未来戦略(2023)」https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo_mirai/pdf/kakugikettei_20231222.pdf (2026年5月3日 閲覧)

05 調査結果② アンケート調査

Q1.日本に留学前、日本で就職したいと思っていましたか?

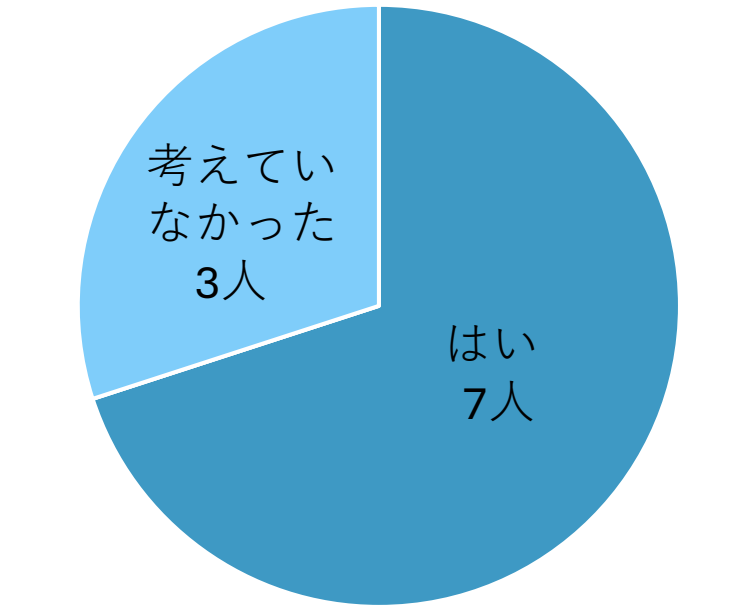


図3 留学前の日本での就職意識

Q2.日本に留学してみて日本で就職してみたいと思いましたか?

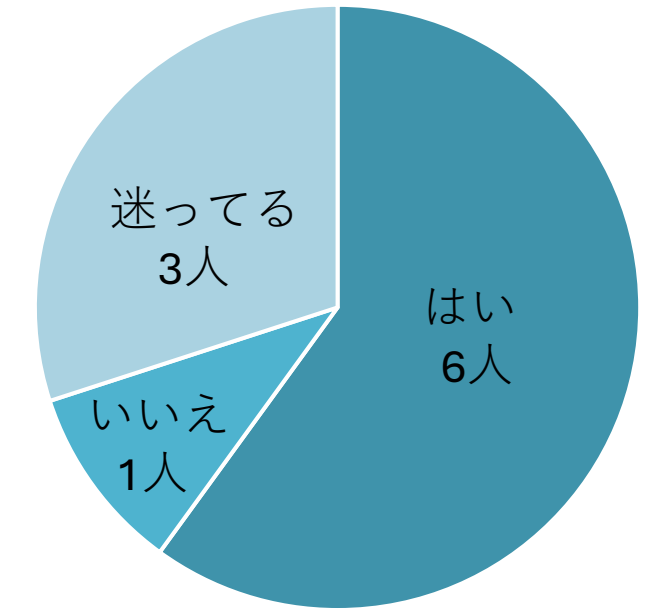


図4 留学中の日本での就職意識

Q3.(Q2ではいいと回答した人に対して)日本で就職するにあたって、どんなサポートがあったらいいですか(記述回答より抜粋)。

- 外国人が就職しやすいところの情報提供。取得したほうがいい資格があるかを教えてくれる。
- 自己PRの練習のサポートをしていただけると大変ありがたいです。日本企業に合った形で伝える力を身につけたいと考えています。また、自分の国にはない日本独自の就職活動の仕組みや企業文化について重点的に指導していただけると助かります。
- 日本の就職は独特なので、日本の就活システムの解説を体系的に教えてくれたら助かります。
- もし推薦があったらもっと良くなると思います。
- (サポートが)あったほうがいいと思います。中国の学校ではどうやって中国で就職するのかを教えてください。
- 自分にふさわしい企業などを教えてくれるサポート。

Q4.留学中、日本人家族のもとでホームステイをしたいと思いますか。

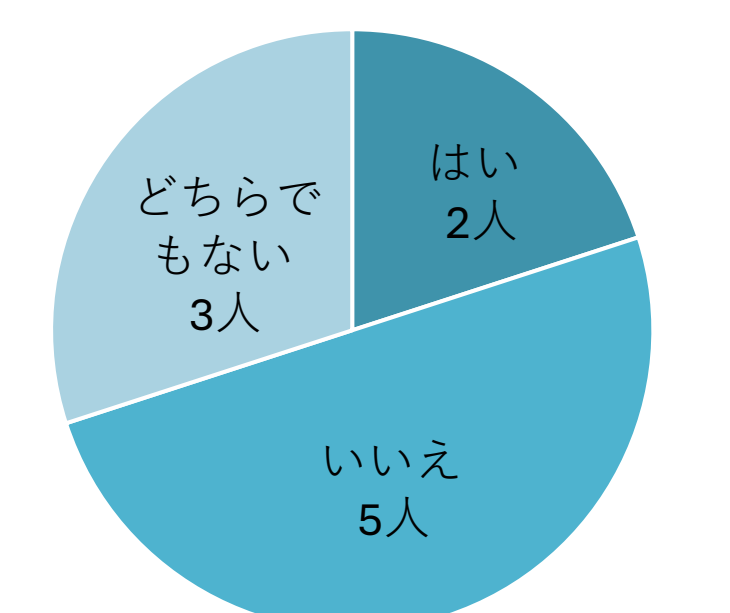


図5 ホームステイをしたいと思いますか

Q5.もし日本人家族のホームステイ先の子どものお世話をする代わりにお金がもらえる仕組みがあったら、ホームステイをしたいと思いますか。

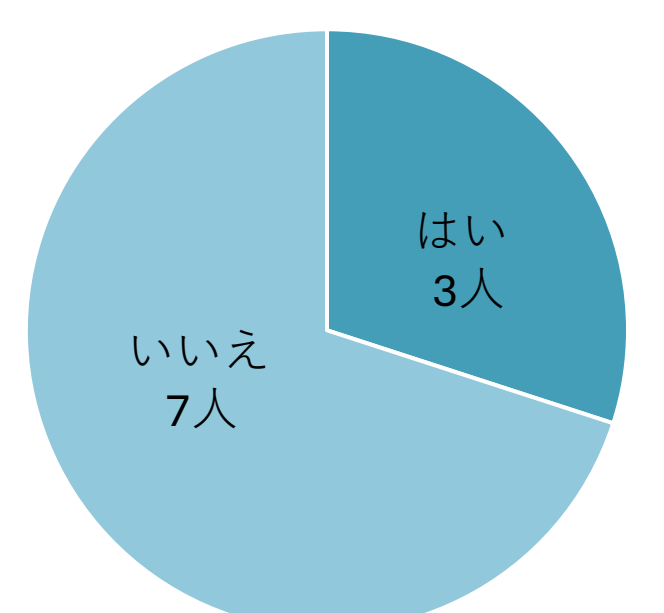


図6 お金がもらえるホームステイをしたいと思いますか

Q6.その(Q5を選んだ)理由を教えてください(記述回答より抜粋)。

参加したい理由

- 日本語を勉強したいから。
- 私にとって、ホームステイは日本の文化や日本の日常生活を体験するチャンスであるから。
- 日本の子供の生活や文化を知ることができるから。
- ホームステイ先の子どものお世話をすることは自分の能力を鍛えられるし、お金をもらえるので、やってみようと思った。

参加したくない理由

- ご迷惑をかけたら申し訳ない。
- 元々人見知りのタイプであり、子供と接する時もどうやって親しめるか分からない。お金は貰えたとしても、疲弊していると思うから。
- 子供と交流することがあまり上手ではないから。
- 「お世話をする代わりにお金をもらう」という形になると、まるで任務のように感じてしまい、リラックスして交流することが難しくなってしまうから。
- 留学生は異国で生活する立場上、どうしても弱い立場になりやすいと感じているため。日本に来たばかりの留学生にとっては、言語や文化の違いによる負担が大きいと考えられるから。
- 子どものお世話は、「仕事」として割り切ろうとしても、生活と完全に一体化するのでオフがほばない感覚になりがちだから。また、「お金をもらうのはちょっと気まずい」って感じもあるから。
- 1人暮らしに慣れてしまったから。

06 考察・提案

●現状

【公のサポート】日本の育児サポートも留学生の就職サポートも充実してきている。

【家庭内のサポート】

- 育児サポートは、ベビーシッター利用率低く、男女家庭内労働格差が著しい。
- 実際に日本で働いたときの家庭内の様子を想像できるようなプログラムは少ない。
- 日本人家庭から得られる就職活動に関する情報に留学生はアクセスしにくい。

●アンケートから分かったこと

アンケートからも就職を希望している留学生の割合が多かった。その中で、日本の就職活動は独特という声も複数あった。しかし、日本の家庭にホームステイし、子どものお世話をしてお金お貰うという仕組みは留学生にとって抵抗のあるものだと分かった。

●日本人家庭における草の根的な国際交流の提案

- アメリカのオペアプログラムのように家庭にホームステイするのではなく、お昼や夕方などの短時間のホームビジットの形式で交流するのが良いのではないかと。
- 留学生はお買い物を手伝う、料理を手伝う、少しの間子どもと一緒に留守番しているなど、あまりプレッシャーにならない範囲で日本人家庭のサポートするのはどうか。
- 大学を通してのプログラムにすることで、留学生も受け入れる日本人家庭も安心して参加できるのではないかと。
- 同じ大学の日本人学生や他の留学生とペアで参加することで、参加する留学生の緊張や不安が減り、参加しやすくなるのではないかと。

【具体的な方法】

- 留学生就職促進教育プログラム認定制度に日本の家庭へのホームビジットを積極的に加える。
- 大学生ベビーシッター(昭和女子大学)のような、日本学生を対象としたベビーシッター体験プログラムに留学生も積極的に参加していただく。

草の根的な国際交流のメリット

- ◆留学生は、リアルな働く日本人の家庭での様子に触れることで、日本で働く自分の姿を「公私」どちらにおいてもイメージをする良いきっかけになる。
- ◆日本人家庭は、留学生を受け入れることで、留学生を通して海外の文化や価値観を知り、日本の家庭・育児文化を見直すきっかけになる。